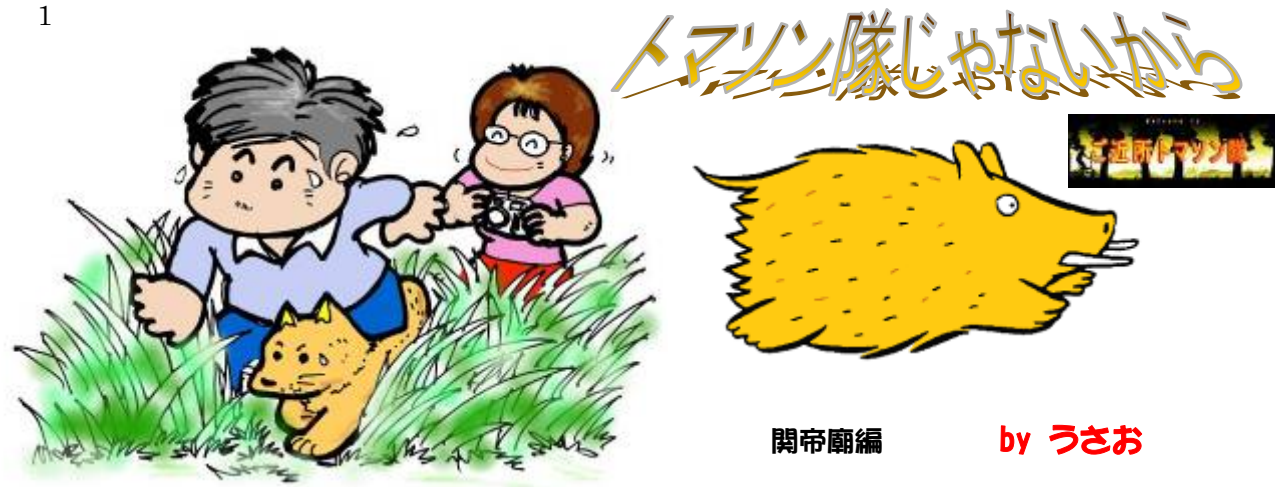


関帝廟編　　**by うさお**

前回からトマソン隊でもなく、鉄道お宅でもなく廃墟マニアでもない、ご近所紹介隊に成り下がっているうさお、Cacco、ライ隊員の面々、恥ずかしくて下を向くこともしばしば。最早、マークもウサギからイノシシに変わっちゃったし・・・。世の中がどんどん変革している時代、我々もバラク同様、「Change!」We Can!とせねばならぬのか。それどころか、コンサルタント業に身を置いているうさおは、会社そのものが今後あるのかどうか、不確かになってきました。大手コンサルの銀行筋が手を引いたとの情報はとても他人事としては聞けません。そのコンサルさんは、事業仕切りが厳しかった道路コンサルさんだったため、噂は真実味を持ち業界を流れていきました。潰れちゃうのか？うさおの希望ですが、後一、二年は会社に頑張ってもらいたいなあ。年金がちゃんと支払われるようにね。

と言うことで、今回が中華街探訪、次回横濱大通り公園、次々回横濱遊郭ってな具合に関内を中心に紹介をしてみたいと思います。（話がどう続くの？）

何故に中華街かと言うと、横浜に住んでいる限り年に数回は中華を食いに行きますし、小さい頃に親父達に連れられて行った記憶があります。どこかで述べましたように親父は関内の境町に住んでいましたので中華街は遊び場だったのでしょう。うさおの子供の時代の中華街は、小林旭や裕次郎の映画にありますように、表は華僑の華やかな商売・飲食街で、裏は密輸・阿片の町というイメージでした。裏通りから藤村有弘のような中国人が出てくるもんだと思っておりました。

中華街は東は海岸通りからひとつ大通りを隔てた元町・谷戸橋に繋がる道路と、南西の高速道路に囲まれて横浜スタジアムから加賀町警察署の道路に囲まれた処に在ります。（赤破線で囲まれた処）

魏家：魏光焔氏は貿易商「同源泰」を創始しています。日本人の長島豊子と結婚し子を成し、日本に骨を埋めるとともに、中華街の頭領として多くの功績を残しました。

梁家：「萬珍楼」を経営しています。係累には横浜から上海に戻り、中国に野球を伝えた梁扶初が居ます。

折りしも開港資料館で「横浜中華街文化フェアー」を行っていたので、まずそれを見に行きました。中華街は横浜の開港と時を同じくし、150年の歴史があります。中華街より東側の海岸通り、山手には、外人たちの居留区がありました。

中華街を特徴付けるものに風水に従ったもんが10箇所在ります。朱雀、玄武、朝陽、延平門が東西南北に当たります。

そして、地図上の關帝廟⑥と媽祖廟⑧が中国人の信仰の核として存在します。

關帝とは、あの映画「レッドクリフ：赤壁の戦い」の主役の一人、武将の関羽が祭られているところです。

さて、150年前の中華街には、「買弁」と呼ばれる中国人の交渉人が居ました。香港・広東・上海の西洋商館で働いていた中国人達で彼らは西洋の言葉が話せ、また日本人とは漢字で筆談が出来たため、生糸や茶の貿易で欧米人と日本人との仲介者としての役割を果たしました。

中華街には有力者が四家ありました。

安楽家：中華街の真ん中辺りに「安楽園」と言うお店が在ります。古い佇まいで好みの店ですが、あまりお客さんは入っていません。安楽家の中国名は羅さんです。うさおの知り合いにも鉄道綜合研究所に勤める羅さんがいます。

鮑家：「安楽園」からやや斜め方向に「聘珍楼」がありますが、関東大震災から張氏から引き継いで「聘珍楼」の経営者になりました。「聘珍楼」は飲茶が有名です。

この四家の歴史が「横浜中華街文化フェアー」で語られておりました。で、ひととおりこのフェアーを見学した後、早速本来の目的である中華街の昼飯に行きました。カメラをぶら下げて歩いていると、見知らぬおじさんが「あなたもですか？もうそろそろですよね？關帝廟ってどちらの方向にありますか？」って聞いてきます。はあっ？

話が上手く噛み合わないので、恐る恐る「何です？」って聞いて見ましたところ、「手にしている一眼レフカメラを見て、今日の祭りを撮りに来たんだと思った」のだそうです。今日は年に一度の「關帝誕」だそうで、關帝廟から媽祖廟まで關帝のご本尊が練り歩くのだそうな。知りませんがな。關帝廟の場所を教えてあげると、おじさんは喜んですっ飛んで行ってしまいました。

私達は先ほど見聞きした中華街の歴史から、今まで行ったことのない「安楽園」に行くことにしました。店の前の通りは芋を洗うような人の波で、周りのお店は引きも切らないお客さんで天手古舞いしていましたが、あれっ「安楽園の」の前は客足も無く静寂が漂っています。

しかし、昔ながらの佇まいにレトロっぽさを感じて気に入っちゃいました。

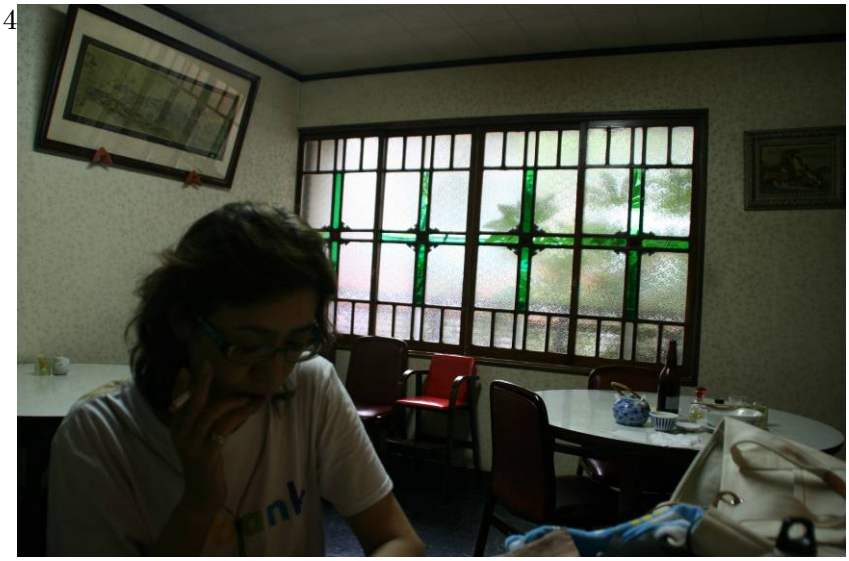
ここでお昼を頂くことにいたしました。

ガラッと引き戸を開けて中に入ると、あれっ意外にお店の中は暗い。通された部屋は玄関脇の部屋だが先客が一人。

どうやらこれが今日の昼を過ぎてのお客さんの全部らしい。

一瞬、「均昌閣」か「聘珍楼」に行くべきだったかの思いが過りましたが、いやいやと思い直し、注文をして見ることに。

どう見ても裏店に住む日本人の



おおっ、通りが良く見えるぞ。（お尻がでかいな、うさお！）
これが関羽だと言うが成吉思汗のようだね。→

関羽は、中国の後漢の人で劉備玄徳に仕えた武将です。字名は雲

おばあちゃんのような従業員さんが、これも達者な日本語で下町のような応答をして呉れました。

昔からの由緒あるお店ということで高い値段を思い浮かべておりましたが、まあまあ普通のお値段だったのでほっとし、麺類以外に中華街定番の車海老のチリソース炒めと青椒肉絲を頼みました。

出て来たものはとても盛りの良い料理が出てきました。「うちは盛りの良いのが売りだからねえ。」中国人ぽさのまるっきり無いおばさんが鼻を蠢かして自慢気でした。

うさおもCaccoも満腹で満足でしたが、途端に聞こえるとても中華風な銅鑼と太鼓の音

おばさんに聞いてみると、この大通り、詰まりこのお店の前を通るって訳ね！

やったって訳でお店の前に出てみると既に黒山の人だかり、とても写真なんて撮れやしないなあ。

少し図々しいと思ったが、二階で写真を撮らせて貰って良いですかと聴くと、快くどうぞとの返事。

長。その武勇や義理を重んじる事から、後に関帝（関聖帝君・関帝聖君：三界伏魔大帝神威遠鎮天尊関聖帝君）と称せられています。

うちの親達は、「関羽」と「鍾馗様」とは一緒だと言っていましたが、どうも違うようだなあ。

信義に厚く学識があり文武両道の人と言われています。

この関羽が算盤を発明し、大福帳を作って大いに経済の改革を行ったことから商売の神様としても祀られてることを「関帝廟」の由来に書いてありました。

知らんかったねえ。

「はて、これは一体何だろう。・・・爆竹でした。」

色々な中華ぽいものがたくさん出てきます。意味は良く判らないけど、台湾との友好関係を祝っているような幟でした。

夜の關帝廟はライトアップされていてこんなに綺麗です。

夜の関帝廟

関羽の外見は如何だったのかも疑問です。

身の丈九尺、二尺の髭、紅顔で重さ八十二斤の青龍偃月刀を持ち、赤兎馬という駿馬に跨っているのは、「レッドクリフ」で見たとおりなのですが、映画ではうさおがイメージしていた面長な顔ではなく、やや丸顔なのが気に食わなかった。

中国の人達は関羽のことを大変好きなようで、毎日この廟にはお供え物や蝋燭が奉納されています。

だから「孫権は関羽を討伐したので、民衆や各国の武将達からも嫌われ、後漢王室のためという大義名分は失われた」と関羽を討ち取った武将のことは悪し様に言われています。

←関帝廟の階段に飾られる蝋燭の群

で、またこの関帝誕の祭りに戻ると、なかなかご本尊は参りませんで、日本で言うところの獅子舞のような狛犬舞がやってきます。お店の前でひとしきり、アクロバット的な舞を披露します。

するとそこのお店の主人が現れて狛犬にご祝儀を上げますと、更にお礼の舞をもう一指し。

沿道のお客さんの中には、何を勘違いしたか、自分達もご祝儀をあげている人もいました。もちろん狛犬はますます元気に踊っちゃいます。

この舞に演奏をつけるのが、銅鑼、太鼓、笛隊です。若い子達ばっかりでこの子たちにはご祝儀は回ってきません。

その次にやってきたのは、これは何でしょう、唐子？布袋様？御大尽？

どうやらこの被り物の中に入っているのは女子らしく、しばらく練り歩くと次の女の子が代わって入ってました。

先ほどの楽隊の子達とは、帯の色とズボンの柄が違うんだね。

と今までは可愛かったものが練り歩いてましたが、これは如何見ても「赤鬼」、「青鬼」ですよね。廻りいるお客さんたちの背丈の約二倍。

以外に器用に体を振ると左右の手を前後しながら歩いているように見えます。で、この鬼達もご他聞に漏れずお店からご祝儀を貰っていました。

お店の中に押し入ろうとしているのは、「媽祖廟」の神輿です。柄の長い輿でこれも数回ほど店の中に乱入しようとしますが、、お店の方でご祝儀を与えると、さっさっと次の店に行っちゃいます。

ここで気付いた不思議なこと。彼らは通りの東側のお店にしか愛想を振りまきません。

西側の店はご祝儀を出さないから廻らないのか、それとも媽祖廟まで行ってからこの通りを帰ってくるので、その時西側のお店に愛想を振りまくのだろうか？

道教の思想で廟が祭られているなら、多少風水の影響も受けているのだろうか？

兎も角、この通りには繁盛しているお店が目白押しなので、儲かること請け合いだ。

定番の龍の舞ですが、これは黄龍（または金龍かもしれないが）黄色は金運の色。

やはり商売繁盛を祈るお祭りなのかもしれない。

この祭りを教えてくれたあのおじさんはこの雑踏のどこかにいるのだろうか。

多分前の方にいて一番良い場所を確保しているんだろうな。

おっ、阪神タイガーズだって思っちゃいましたね。龍に対抗して虎。

定番ですね。するってえと、さっきの赤鬼、青鬼は例えば「張飛」とか「趙雲」とかを表していたのかもね。

しかし、ファンファーレですよ。やはり野球の応援のようだな。

今度は「黒人」と「白人」のような人達。

中国は国土が広いから、あらゆる人種がごった煮の様にいるけれど、なんだかもっと關帝に詳しい人がいると、これは何を表しているよとか、これは何を祭ってあるよとか教えてもらうのに、今回は何の予備知識もなく来ちゃったからね。

でも、幸運でしたけどね。

この神輿の中がいよいよご本尊の神君關帝です。神様ですよ、神様。

これも結構なお供を連れて練り歩きます。先ほどの籠に入れられた爆竹は最近のお上のご指導なんだろうと思い、味気ないことをするなあと思っておりましたが、最近の韓国の炭塵爆発やロシアのお店でのクラッカー火災などを見るとこれも致し方ないと思う次第です。

で、お約束の美人のスタッフさんを真上から隠し撮り。人間、目の前の人の波に気をとられて上なんか気付きゃしないんですよね。

ちょいと硬質な感じはしますが、中国美人と思えばそう見えます。日本人や、韓国人とは違う風に見えます。

これが神輿で担がれていた関帝様です。

先ほどの記述のように赫ら顔で美髯を蓄えガタイも大きそうです。でも、顔は瓜実顔ではありませんね。アンディ・ラウや金城武では無い様です。

目の前にある大きな鈴のようなものは何でしょうか。金色に輝いています。しかし下のほうに着陸用の足が出る穴が付いています。

判りました。関帝が異常に強かったのは、

このUFOを持っていたからなんでしょう。これがUFOであるという学説は何処にもありませんので、うさおの大発見と言うことになります。

ご覧のようにアダムスキー型の空飛ぶ円盤を小脇に抱えて、敵陣に踊りこみワイヤーアクションよろしく、右に左に飛び回り敵をなぎ倒すことが出来ました。

赤壁の戦いの時には、きっと諸葛亮孔明にこれを貸し与えて、吹く風を敵陣のほうに変えたのでしょう。

いやあ、今世紀最大の発見だなあ。

関帝が通り過ぎてもなお、異常な数の見物客で賑わう中華街でした。

↙これが関帝廟に納められているときの関帝様。お線香などを供えている割に余り抹香臭くない関帝様、道教だからか？

って言うか、何だかキリスト教のようにも見えますね。

人が食べていると気になるライ隊員

皆さんは、横浜に外人墓地が三箇所あるのをご存知でしょうか？

一つ目は山手にある有名な外人墓地です。二つ目は保土ヶ谷の山の上にあるフランス軍とイギリス軍の軍人用の外人墓地です。保土ヶ谷子供公園の奥手の方にあります。余り人に知られていません。

三つ目は更に人に知られておりませんが、華僑の方の外人墓地です。場所としては山手から根岸の米軍施設(Negishi Avenue：米軍軍属の居留区)の裏側になります。

Caccoも知らなかったようです。大変感激をしておりました。凄く良いところジャンとついつい、横浜弁が出てしまいます。

うさおは大学時代にこの墓地だけが、土葬を許可されていると聞き、恐る恐る見に行ったことがあります。もちろん、稲川淳二のようにビビリまくりです。

「やばい、やばいよ！来ている。来てるよ！感じるもの！あ～～～！」ってなものでした。

友人と数人で出かけましたが、土饅頭は踏まないように気をつけてました。

下にはお棺が埋まっており、最悪の場合踏み抜いてお骨の中に足を突っ込んでしまう恐れがありました。それこそゾンビ映画さながらの阿鼻叫喚の図が容易に想像できましたから・・・。

今行くと、趣のある良い所でした。カメラを持って物珍しげに散策している私達をお参りに来ていた中国の方たちが不審そうに見ておりました。